

## 次期計画の基本理念(案)への意見

○ 調布市地域福祉推進会議(令和5年5月24日), 調布市障害者総合計画策定委員会・庁内連絡会(令和5年5月25日・6月7日), 調布市高齢者福祉推進協議会(令和5年6月8日)

5月時点 理念文案	調布市地域福祉推進会議 意見	調布市障害者総合計画策定委員会・庁内連絡会 意見	調布市高齢者福祉推進協議会 意見
全体に係るご意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>●みんなが好きに集まれる場所, おしゃべりができる環境が必要。</li> <li>●理念1, 自分は自分らしく暮らすことができている。そのための場を探すことが大変だった。</li> </ul>	
<b>【次期「福祉3計画」の共通理念】</b> みんなで支え合う, 誰一人取り残されない, ともに生きるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「みんなで支え合う」はいいと思う。</li> <li>●「誰一人取り残されない ともに生きるまち」と言うと, 今の支援を受けている高齢者や障害者は取り残されているのか, だから取り残されないようにするのか。何から取り残されているのか。要するに, 経済成長のところで取りこぼされた人たちみたいに受け取られかねないので失礼な感じもする。</li> <li>●「取り残されない」と「取り残さない」で随分違うので検討していただきたい。</li> <li>●「取り残されない」は市民目線で共感を覚えた。「取り残さない」は行政目線にもとれる。</li> <li>●乱暴な表現に感じた。基本構想は「餅を絵に描く」も許容範囲だが, 実行計画は「食べれる餅」であるべき。孤独死や引きこもりをゼロには実現不可能である。現行計画の「安心して」を活かして「みんなで支え合い, 安心して, ともに生きるまち」としたら良い。</li> </ul>		

分類	調布市地域福祉推進会議 意見	調布市障害者総合計画策定委員会・庁内連絡会 意見	調布市高齢者福祉推進協議会 意見
<b>【理念1】誰もが自分らしく暮らし続けることができる地域社会</b> 誰もが住み慣れた地域で, 安心して, いきいきと, 自分らしく, 自立して暮らし続けることができる地域社会を目指します。そのために, 必要なサービスや支援が行き届く体制づくりと, 主体的な活動や自己決定による暮らし, 社会参加を促進する環境づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「社会参加を促す取組を進めます」が「環境づくりを進めます」に変わった意図は何か。</li> <li>●「自立して暮らし続ける」の前にあった現行の「必要な支援を受けながら」が削除されているが, 自立という言葉は多義的であり, 周りに依存しないで, 自立をしてという意味合いで用いられることができる自立もあるので, 誤解のない表現にした方がいいと思う。ここがただ「自立して暮らし続ける」というと, 経済的, 身体的に誰にも頼らないで自分だけで生活を完結できるといった誤ったメッセージにならないか。キャッチフレーズの「みんなで支え合う」との齟齬がないようにしないといけない。事務局説明の「生きがいをもって」という表現に差し替えることも含めてご検討いただきたい。</li> <li>●社会福祉では「自助的自立」と「依存的自立」と言われる。日本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●もう少し医療のことも入れても良いのではないかと。市の基本構想に「自分に合った健康づくり・・・」ともある。予防的, かかりつけ医・薬局を地元で見つけて過ごしやすい街にしていくという点を。</li> <li>●(庁内連絡会より)「健康」、言葉のとらえ方が人それぞれだと思うが, 入れてもいいか疑問に思う。</li> <li>●「いきいきと」みんなしなければいけないのか。その時によってありのまま, 自分のままで, 病気になったり落ち込んだりしても, その状態でも住み続けられれば。</li> <li>●前回「必要な支援を受けながら」がなくなっている。支援を受けながら自立する, という概念が重要。一般市民には昔ながらの古い自立のイメージが残っている人もいるのではないかと。これが自立のスタンダードなんだと啓発していくためにもこの一言は重要</li> </ul>	

分類	調布市地域福祉推進会議 意見	調布市障害者総合計画策定委員会・庁内連絡会 意見	調布市高齢者福祉推進協議会 意見
	<p>では成熟していない(理解が不十分)なので、まだ「必要な支援を受けながら」という前提を入れた方が無難と思う。要するに「助けを受けない生き方をしてください」みたいなメッセージに受け取られると困る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●タイトルの「誰もが自分らしく」を「みんなが自分らしく」に、説明文の「誰もが住み慣れた地域で」を「みんなが住み慣れた地域で」にした方が良い。</li> <li>●行政や各機関の役割が見えなくなり、自己責任のように読める。行政・各機関、地域、自己の三位一体で取り組むことを明確に表現すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(庁内連絡会より)「住み慣れた地域で」という表現について子育て世代は転入者が多いので、住み慣れていない人もいる。</li> </ul>	
<p><b>【理念2】互いに認め合い、尊重し合い、ともに生きる地域社会</b> 多様性を認め合い、互いを尊重し合いながら、ともに生きる地域社会を目指します。そのために、一人ひとりの能力・意欲・個性等が発揮され、誰一人社会から孤立することのない地域づくりに取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「誰一人社会から孤立することのない」を、例えば「みんなが社会から孤立することのない」にした方が良い。</li> <li>●主語が分からないので、行政・各機関、地域、自己の三位一体で行うことを明示すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「多様性」の中で年齢、障害の有無、性別、人種など入れた方が良い。世界人権宣言もかなり細かく書いてあるので参考にして具体的な属性を入れても良いのでは。</li> <li>●(庁内連絡会より)「意欲を発揮」という言葉に違和感。また、発揮という言葉が強い印象。「伸ばす」はどうか。</li> </ul>	
<p><b>【理念3】世代や属性を超えてつながり、住民全体で支え合う地域社会</b> 一人ひとりが世代や属性を超えてつながり、互助・共助の担い手となって、住民主体の支え合いによる地域社会を目指します。そのために、地域住民や地域組織などの多様な主体と行政が連携・協働しながら、地域全体で支え合う仕組みづくりを進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「地域住民や地域組織などの多様な主体と行政が連携しながら」の多様な主体とは。</li> <li>●互助・共助の基盤を充実させていく中身を作りこんでいくことが非常に重要になる。</li> <li>●互助・共助のシステムは子育てとの接点を考える必要がある。時間的に余裕のあるシニアの人達が担い手になってもらう仕組みをどう考えるかもこれからの地域福祉計画に大切になる。</li> <li>●「世代や属性を超えてつながり、住民全体で支え合う社会」はとてもいいが、子ども子育て支援計画が3計画にないということは、その時点で世代が属性を超えてつながっていないということになる。「子ども」をどういった形でここに入れるかは難しいが、国の縦割り行政とは違う基礎自治体は子どもをちゃんと入れて考えるべき。</li> <li>●タイトルの「住民主体の」と「地域全体で」と相反する主体を主語としており、意味が分かりづらい。「住民主体の」を削除すれば、冒頭の「一人ひとり」が主語だと明確になる。</li> <li>●「一人ひとり」に調布市内に勤務や通学している人が入るならこのままで良い。入らないなら「市民一人ひとり」とすべき。</li> <li>●「地域住民や地域組織などの多様な主体」が「行政」と対峙しており、「多様な主体」を「地域住民や地域組織」に絞ったことから「各機関や福祉関係団体」を排除している意味にもなる。ここは</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●理念3と4の違いは、3は仕組みというより、ケアマネさんとか介護サービスの人がやるのではもう無理で、地域が対応できる力をもっていくために、何をしたらいいかということを考えるところ。理念4は、情報をながす仕組みとか、DXとか、そのあたりのことを確立していくものとらえていいか。</li> <li>●理念3と4の違いが分かりにくい。</li> </ul>

分類	調布市地域福祉推進会議 意見	調布市障害者総合計画策定委員会・庁内連絡会 意見	調布市高齢者福祉推進協議会 意見
	<p>「地域住民、地域組織、各機関や福祉関係団体などの多様な主体」と丁寧に表現すべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「属性を超えて」の「属性」が何を意味しているのかあいまい。使うのであれば説明文を入れる。</li> </ul>		
<p><b>【理念4】多様なニーズに応じた切れ目のない包括的な支援体制</b></p> <p>複雑化・複合化する多様なニーズに対し、切れ目のない支援を一体的・包括的に行う、重層的な支援体制の充実を目指します。そのために、福祉分野のみならず他分野とも連携し、多機関協働による包括的な支援や多世代・多分野の交流、多様な担い手が専門性や強みをいかす取組を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「一体的・包括的に行う」は単独で文章の最後の「充実を目指します」にかかっている表現になっており、絶対的な行為の宣言となっている。これを「一体的・包括的に行う重層的な支援体制」としたうえで、一体的な行為として文章の最後の「充実を目指します」にかかるようにすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援体制があっても家族や当事者が働きかけないと利用できない。行政側から家族・当事者に対して積極的に支援する体制も理念に入れてもらえれば。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理念3と4の違いが分かりにくい。</li> </ul>
<p>その他</p>	<p>■検討の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●障害、高齢、子どもがどういう理念で計画を立てているかを示していただいた上で、それらを包括するような理念を検討する進め方をしてほしい。</li> <li>●別々に計画が作られるとしても、我々としてもどういう内容になっているのか、どういう連携でやっていくのかを考えていく必要がある。</li> </ul>	<p>■「基本的考え方」(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●読んだ人がこれを見て少し頼りなく思ってしまうところがあるのではないか。図に「共通理念のもと、次期各計画の個別の理念、基本的方向性、目標などを別途定める。」とあるが、ニーズ調査の結果も踏まえて実効性のあるアクションプランを実行していきますという気持ちがもう少し表れるような表現にしていけないか。</li> </ul>	